



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2010年10月1日

開閉眼のない重症心身障害

所長 横地 健治

昨年来話題となっていた小児の脳死判定基準も確定し、本年7月に改正臓器移植法が施行されました。この小児脳死判定基準は、従来の成人のものとは大きな変更はありませんでした。当初、脳死は、「人の死」として改正法案は可決されたのですが、実際は、「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

つまり、私たち重症心身障害児施設が対応すべき障害像だということなのです。

「人の死」として改正法案は可決されたのですが、実際は、「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

私は重症心身障害の分類を提案しています。有意な言語理解がなく（知能障害レベル「A」と判定）、寝返りもできない（移動機能障害レベル「1」と判定）障害像が（合わせて「A1」と判定）、重症心身障害の中核です。その中で、目覚めて目を開き、眠って目を閉じるといった日内リズムが認められない障害を、さらに重度障害として区別しました（「A1-C」と判定）。

「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

介護者が有効な働きかけを行うには、対象者は目覚めていなければなりません。よって、これが明らかでないとしたら、介護支援を行う上で大きな問題となります。

「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

覚醒か睡眠かが区別できないひとつの可能性は、脳は目覚めた状態だが、外からはそれがわからない場合です。これこそ、究極の表出障害です（totally locked-in state と呼称）。この場合は、かすかだが、確かな表出を見出す作業が重要となってきます。

「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

もうひとつの可能性は、本当に常に眠ったような状態にあるということなのです。いつも眠ったような状態でも、刺激に対する反応性は皆無ではありません。反応性の高い時期と低い時期があるはずで、反応性の高い時期を覚醒に準じる状態とみなし、その時に働きかけを行い、その反応を受け取らねばならないと私は考えています。ただし、このふたつの可能性を区別することは容易ではありません。このためには、刺激に対するわずかな反応の意味を正しく解釈する作業を積み重ねていくしかないと考えています。

「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

開閉眼が区別されない重症心身障害児（者）（前述の「A1-C」）の多くは呼吸障害を伴っています。自発呼吸が皆無で、片時も人工呼吸を休めない人が多数です。さらに、呼吸だけでなく、身体機能の様々の面で特殊な問題を持ち、対応に苦慮しています。例えば、体温調節の問題があります。一般的重症心身障害児（者）（例えば、前述の「A1（A1-C以外）」）と比べると、多くは、著明な低体温（腋窩で測れば、33〜34度ぐらい）があります。そして、

「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

手足の末端部の皮膚は一層冷たく感じます。これは、健常者のどのような状態に相当するのか、よくわかりません。健常者の基準では低体温だが、こうした人にとっては、これが平熱なのかもしれません。あるいは、本当に寒さに耐えている状態なのかもしれません。ただし、凍傷につながる事態は経験していません（その寸前かもしれません）。

「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

このことから、平熱に近いと考える方が当たっているかもしれません。

「臓器移植を前提とした死」としてのみ運用されることになりました。よって、意識がないように見える重度脳障害の人が、移植と無関係に、脳死に該当するか否かの判定を迫られることにはなりません。

健常者は温水をこちよく感じます。特に日本人はお風呂が大好きです。こうした低体温の人たちにも、温水による快の感覚を経験してもらいたいと思うことは当然です。そうしたら、それは、どのくらいの温度なのでしょう。この問いにも簡単には答えられません。基礎体温が低ければ、健常者にとってこちよいい温度が、熱い、痛いといった苦痛となることは十分予想されます。また、その皮膚の熱に対する防護機能がどうなっているのかも問題です。この機能が劣っていれば、健常者なら快となる温水でも、熱傷に至る可能性はあります。こ